

「情熱接客」で、さらに愛される店舗目指し

CUE

大和高田市東中に本店を構える株式会社CUE(大阪府大阪市・杉本さやか代表取締役)は、これからも地元や利用者に愛されることを目指し、今年に入り県内で運営するアミューズメント施設2店舗をリニューアルオープンした。機械を入れ替えると共に店内をより明るくし、スタッフが「情熱接客」で利用者を迎える。ゲーム機のレンタル事業にも力を入れる杉本社長に、アミューズメント業界や、今後の展開などについて話を聞いた。

「CUEについて」

大和高田店と奈良三条店の2軒のアミューズメント施設の運営をしています。

遊びの部分を常にバージョンアップさせ、他社にないものを出したいという思いから、日々開発を行っています。

アミューズメントに関わることを事業の柱に、自社オリジナル製品のクレイニング機やガチャガチャ機の開発、販売も行っています。また現在、契約者さま約500店舗へ、約3300台のアミューズメントゲーム機を貸し出し、設置するレンタル事業を全国展開しています。

例えば、ゲーム機に設置した液晶で抽選を行い、何かしらのおまけがある機能を付けたり、他にも調光機能を付け、景品によって機械内の明るさや、暖色、寒色といった光の色を変化させることができます。

「県内では、どのような場所へ貸し出されているのですか。」

ホテル日航奈良さんや、カラオケ店のまねきねこさんなどです。そういったゲームセンターと呼ばれる場所ではない異業種の店舗に設置させていただいています。

「開発されているゲーム機の特徴は。」

アミューズメント機は自動販売機やロッカーとは違いますので、遊びがないとゲームになりません。その

数え、人の手も時間も必要のあったものが、データを見ればリアルタイムで今の売れ筋、在庫の有無が一目瞭然になります。

「アミューズメント業界の時代変化について。」

昔のゲームセンターというのは、「暗くて危ない」「子どもが1人で行ってはいけな場所」というイメージがあったかと思いますが、今は業界全体でもそういったイメージが払拭され、家族連れや子どもが気軽に入ることができる「明るく安全」を意識して運営

されています。

「昔のゲームセンターといえばビデオゲーム機が店の多くを占めていたかと思いますが。」

昔は対面や横に座って遊ぶビデオゲーム機が多かったですが、オンラインの普及やスマートフォンゲームの人気から減少していて、今は実際に店に来ないでできないクレイニング機が人気があり、店の構成比を多く占めています。

「運営、経営にあたり意識されていることは。」

人を大事にすることです。アルバイトからの社員登用も積極的にを行い、現在大和高田店と奈良三条店の社長を含め、アルバイトから社員になった人が多くいます。そういった環境から働くスタッフのモチベーションも上がり、より良い接客ができていと思っています。

「今後の展開を教えてください。」

今回のリニューアルは、今後も愛される店を目指した積極投資です。レンタル事業においては、県内企業さまと協力して設置していただける店舗を増やしていきたいと考えています。また県の観光行政とコラボして、せんとくんのフィギュアを全国へ景品展開する予定です。

「奈良三条店と大和高田店をリニューアルされましたが、利用する客層の違いは。」

奈良三条店はJR奈良駅に近い店で、来店されている約8割が訪日外国人です。店内の外貨両替機のデータを見ると、元やウォンもありますが、ドルやユーロが多い印象です。一方で高田店は、外国人の利用はほぼ無く、地元の人を中心に、橿原市や香芝市などの近隣から多く利用していただいています。

株式会社CUE 代表取締役
杉本さやか氏



県内のアミューズメント施設リニューアル



3月にリニューアルオープンした奈良三条店(写真上)と、11月にリニューアルオープンした大和高田店